

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（3年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	(ふりがな) あさかわ しげお 浅川 滋男
	所属研究機関 部局・職	公立鳥取環境大学・環境学部・環境学科・教授 〒689-1111 鳥取市若葉台北1-1-1 電話番号 0857-38-6775 電子メール asax@kankyo-u.ac.jp
研究課題名	倉吉打吹山麓の歴史的風致に関する総合調査 －「歴史まちづくり法」による広域的景観保全計画にむけて－	
研究結果	<p>①②小鴨川外周域の古代史跡群と農村・農地の融合した文化的景観の歴史地理学的研究（9月～10月）：5月以来、現地を反復的に視察し、当該地の地籍図・航空写真を収集。第5回れきまち研究会で「地名と地形から読み解く古代国府の景観－伯耆と因幡の比較考察－」を報告した。③河原町・鍛冶町の五叉路周辺保全修景計画の検討（9～11月）：全体計画図は4月に作成。緑化は秋からとりくむ。河原町I邸のコンクリートブロック塀の前にプランターを6個おき、「初雪かづら」の苗を植えた。数年後にはコンクリートの概壁を覆い尽くすだろう。④旧陣屋町エリアに残る「都市の茅葺き民家」データベース作成等（9～12月）：6月、旧福吉町の茅葺き民家「旧山岡家住宅」が解体されることを知り、緊急調査をおこなう。旧陣屋町エリアに所在する8ヶ所9棟の茅葺き民家すべてをデータベース化した。2015年に2棟の茅葺き民家が解体され、現状では7ヶ所7棟のみ残存する。研究成果を第5回れきまち研究会で報告。⑤ 第4～5回「れきまち研究会」の開催（11月～2月）：11月8日に第4回れきまち研究会「アジア諸国の住居・集落研究と景観の保全」、1月16日に第4回れきまち研究会「倉吉小鴨川外周域の史跡と文化的景観の保全」を開催。⑥歴史まちづくりの先進地視察（10～12月）：世界遺産申請に伴い重伝建・重要文化的景観が爆発的に増加中の長崎県を視察。⑦研究成果報告書の編集・刊行（12月～3月）：まもなく最終校正の段階。</p>	
研究成果	<p>3年にわたり継続してきた本研究の最終年度は、大きく二つの目標を掲げて活動した。一つは昨年（2014）の町並み調査県有の継続として、1)河原町・鍛冶町に5棟集中する「都市の茅葺き民家」の調査を深め、保全対策の検討を進め、さらに2)歴史的風致の核となる五叉路周辺の保全修景計画を示しつつ、住民とともに近代的施設や鉄柵などの緑化修景に取り組むことである。いま一つは、新規の取り組みとして、小鴨川の外周域にも視野を広げ、伯耆国庁跡などの史跡群と周辺農村・農地等との複合的な文化的景観の特性を評価し、旧陣屋町エリアとの連携を模索することである。</p> <p>調査研究の最大の収穫は、河原町・鍛冶町2丁目や社地区の地域住民との友好関係を築けたことであろう。とりわけ「河原町の文化を守る会」とは運命共同体のようにして活動を共にした。もっとも重要な地域行事である四季の地蔵祭は、毎回大勢がボランティアとして祭礼の運営を補助したし、研究会では頻繁に意見交換をした。その結果、わたしたちは地域住民がどのような方向にむかってまちづくりをしようとしているのか、理解できるようになってきたと自負している。</p> <p>さて、河原町の小川酒造が県の保護文化財に格上げ指定され、法人化による「小川記念館」が開館することになった。巨額の資金が投入される超大型のプロジェクトに期待も膨らむ一方で、地域住民のあいだでは冷めた見方もひろがっている。旧地主階級のお屋敷にだけ補助が偏向し、一般の町並みや地蔵盆などの祭礼には支援の手がさしのべられていないからだ。わたしたちはむしろ、一般の町並みを構成する「都市の茅葺き民家」や「借家・長屋」などの文化財価値をあきらかにした上で、その保全活用の方法を示そうとした。地蔵盆を継承するためにも、こうしたハードな側面からの環境整備は避けて通れないものである。それをないがしろにするならば、「打吹鉢屋川」重伝建地区の新規選定など夢のまた夢であり、歴史まちづくりの礎さえ築けないであろう。</p>	

次年度研究計画	<p>3年におよぶ助成研究は終わったが、今後も倉吉の歴史的環境に係わり続けていく。この2月には河原町の五叉路の路傍にたつ地蔵背面の土蔵群を撤去して駐車場にしようとする構想が発覚し、「河原町の文化を守る会」を中心にして緊急の話し合いがおこなわれた。土蔵の所有者も交えたその協議で、土蔵を含む旧〇邸を国の登録有形文化財に申請しようという結論に至った。こうした住民主体の構想に対して行政は今のところ冷淡だが、わたしたちは支援を惜しまず実現をめざしたい。1棟の登録文化財は重伝建の礎であり、重伝建は「歴まち」の礎であると考えている。</p>	
報告責任者	所属・職氏名	公立鳥取環境大学 企画広報課 渡邊 智子 電話番号 0857-38-6704 電子メール kikaku@kankyo-u.ac.jp

- 注1) 表題には、環境部門、地域部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。
- 2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境部門のみ記載すること。
- 3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。
- 4) 研究実績のサマリーを併せて提出すること。

倉吉打吹山麓の歴史的風致に関する総合調査
－「歴史まちづくり法」よる広域的景観保全計画にむけて－

浅川 滋男(公立鳥取環境大学教授)

【研究結果】 以下のような研究結果が得られた。

①小鴨川外周域の古代史跡群の歴史地理学的研究(9月～10月)：5月以来、現地を反復的に視察し、当該地の地籍図・航空写真を収集。第5回れきまち研究会で「地名と地形から読み解く古代国府の景観－伯耆と因幡の比較考察－」を報告した。

②小鴨川外周域の農村・農地に係わる文化的景観の調査と分析(9月～10月)：5月以来、現地を反復的に視察し、写真撮影。倉吉農業高校で意見交換。

③河原町・鍛冶町の五叉路周辺保全修景計画の検討(9～11月)：全体計画図は4月に作成。緑化は秋からとりくむ。河原町I邸のコンクリートブロック塀の前にプランターを6個おき、「初雪かづら」の苗を植えた。数年後にはコンクリートの概壁を覆い尽くすだろう。

④旧陣屋町エリアに残る「都市の茅葺き民家」データベース作成等(9～12月)：6月、旧福吉町の茅葺き民家「旧山岡家住宅」が解体されることを知り、緊急調査をおこなった。旧陣屋町エリアに所在する8ヶ所9棟の茅葺き民家すべてをデータベース化した。2015年に2棟の茅葺き民家が解体され、現状では7ヶ所7棟のみ残存する。研究成果を第5回れきまち研究会で報告。

⑤第4～5回「れきまち研究会」の開催(11月～2月)：11月8日に第4回れきまち研究会「アジア諸国の住居・集落研究と景観の保全」、1月16日に第4回れきまち研究会「倉吉小鴨川外周域の史跡と文化的景観の保全」を開催。

⑥歴史まちづくりの先進地視察(10～12月)：世界遺産申請に伴い重伝建・重要文化的景観が爆発的に増加中の長崎県を視察。

⑦研究成果報告書の編集・刊行(12月～3月)：報告書『地蔵盆を未来へー倉吉の歴史まちづくり(Ⅱ)ー』を3月末に刊行。

【研究成果】 3年にわたり継続してきた本研究の最終年度は、大きく二つの目標を掲げて活動した。一つは昨年(2014)の町並み調査県有の継続として、1)河原町・鍛冶町に5棟集中する「都市の茅葺き民家」の調査を深めて保全対策の検討を進め、さらに、2)歴史的風致の核となる五叉路周辺の保全修景計画を示しつつ、住民とともに近代的施設の緑化修景に取り組むことである。いま一つは、小鴨川の外周域にも視野を広げ、伯耆国庁跡などの史跡群と周辺農村・農地等との複合的な文化的景観の特性を評価し、旧陣屋町エリアとの連携を模索することである。

調査研究の最大の収穫は、河原町・鍛冶町2丁目や社地区の地域住民との友好関係を築けたことであろう。とりわけ「河原町の文化を守る会」とは運命共同体のようにして活動を共にした。もっとも重要な地域行事である四季の地蔵祭は、毎回大勢がボランティアとして祭礼の運営を補助したし、研究会では頻繁に意見交換をした。その結果、わたしたちは地域住民がどのような方向にむかってまちづくりをしようとしているのか、理解できるようになってきたと自負している。

さて、河原町の小川酒造が県の保護文化財に格上げ指定され、法人化による「小川記念館」が開館することになった。巨額の資金が投入される超大型のプロジェクトに期待も膨らむ一方で、地域住民のあいだでは冷めた見方もひろがっている。旧地主階級のお屋敷にだけ補助が偏向し、一般の町並みや地蔵盆などの祭礼には支援の手がさしのべられていないからだ。わたしたちはむしろ、一般の町並みを構成する「都市の茅葺き民家」や「借家・長屋」などの文化財価値をあきらかにした上で、その保全活用の方法を示そうとした。地蔵盆を継承するためにも、こうしたハードな側面からの環境整備は避けて通れないものである。それをないがしろにするならば、「打吹鉢屋川」重伝建地区の新規選定など夢のまた夢であり、歴史まちづくりの礎さえ築けないであろう。

この2月には河原町の五叉路の路傍にたつ地蔵背面の土蔵群を撤去して駐車場にしようとする構想が発覚し、「河原町の文化を守る会」を中心にして緊急の話し合いがおこなわれた。土蔵の所有者も交えたその協議で、土蔵を含む旧O邸を国の登録有形文化財に申請しようという結論に至った。こうした住民主体の構想に対して行政は今のところ冷淡だが、わたしたちは支援を惜しまず実現をめざしたい。1棟の登録文化財は重伝建の礎であり、重伝建は「歴まち」の礎であると考えている。